

# とむろいし 戸室石だより

土塀の石垣のように、みんなで、暖かい病院を！

発行：金沢医療センター編集委員会

## 副院長に就任して

小島 靖彦



4月1日付けで副院長を拝命致しました。ここに改めて責任の重さを痛感しております。今後とも、当院の診療の原点としている「気配り」と「調和」の精神を守りながら、院長を補佐していく所存でございます。

さて、最近の医療は「質の高い医療」、「安全性のある医療」が要求されます。

その一端を担う目的で、統括診療部長時に「医療安全管理のための研修」を企画し、また診療面では「クリティカルパス」を導入いたしました。リスク感性を養うための研修では異なる職種の皆様が参加し討論する「ワークショップ形式」を採用し、また皆様の度重なる検討をもってパスを作成していただきました。このように「異なる職種の皆様が一同に会し一つのもの創り出す」ことこそが、チーム医療の原点であり病院の力になると信じております。職員が一丸となり、さらに実力を蓄えるために、今後も新しい企画に挑戦していく予定であります。

当院は研修医時代を過ごし、諸先輩から医師としてのイロハを教えて戴いた病院であります。それ故、人一倍愛着があり恩義をも感じています。病診連携の充実、救急部の充実、個人情報保護法の遵守など、まだまだ問題は残っておりますが、患者の皆様から「信頼できる病院」といつまでも評価されるために、精進努力する覚悟でございます。

何卒よろしく、ご支援の程お願いいたします。

## 統括診療部長に就任して 能登 裕



昭和63年4月に当院へ赴任してから早や17年経ちました。この間、地域医療へ微力ながらも貢献できればと念じつつ、糖尿病や甲状腺疾患を中心とした内分泌・代謝疾患の診療に従事してきましたが、この度、4月から統括診療部長を拝命いたし、その責任の重さに身が引き締まる思いです。

昨年度から当院は独立行政法人へ移行し、目まぐるしく変わる医療環境の中で多くの問題が提起されていますが、各診療科の先生方やコメディカルの方々が一丸となり、各自の能力を安心して最大限に発揮できる環境作りが、私に課せられた最大の役割と考えています。それが患者さんへ安全で質の高い医療を提供する基盤を成すと考えるからです。患者さんを中心にしたチーム医療の重要性は、これまで私自身の糖尿病診療の中で嫌という程実感してきました。他の診療科でも同様と思われます。各先生方やコメディカルの方々、さらには医療現場を支えてくれている事務の方々と密接に連携をとり、患者さんに「より安全でより質の高い医療」を提供できているのかを常に自問しつつ、上記課題の達成に尽力致したいと思います。皆様方の御協力と御助言を切に願うものです。

## 金沢医療センターにおける個人情報の保護について

医療情報管理室長 山本 仁

平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたところです。

金沢医療センターにおきましては、患者さまの個人情報を適切に保護する社会的責任があることを認識し、個人情報の保護に努めております。

当院における患者さまの個人情報の利用目的につきましては、「患者さまへの医療サービスの提供」など24項目にとりまとめて院内に掲示するとともに、初診の患者さまにはリーフレットをお配りいたしておりますので、受診にあたりましては熟読をお願いいたします。

なお、利用目的の内容につきまして疑問点などございましたら、お気軽にその旨を医療相談室までお申し出ください。

また、入院患者さまにつきましては、入院の手続きにあたり、電話や面会の方々が来院された場合のご案内に関する同意書を記入していただいております。

ご案内に関して同意のない場合には、電話による入院照会やご面会者来院時の入院病室の案内を行わないなど、入院または退院されたことを病院として一切どなたにもご案内いたしませんので、ご家族や知人の方々などへのお知らせにつきましては、患者さまご自身で行っていただきますようよろしくお願い申し上げます。



## 体外衝撃波結石破碎装置による腎尿管結石の治療について

泌尿器科医長 越田 潔

体外衝撃波による結石破碎とは、体に傷つけることなく、体内に存在する結石のみを細かく破碎し、自然な排石を促す治療法です。尿路に発生する結石は腎臓でその核が形成され成長し、径の細い尿管に移動することで、いわゆる疝痛発作（非常に強い痛みで患者さんはしばしば救急車で来院されます）を引き起こします。尿管にはまり込んだ結石はなかなか移動せず、やがて尿管での尿の流れの停滞を来し、水腎症（腎臓が腫れて、機能が低下した状態）を引き起こします。ここで、結石を除去する必要に迫られるわけですが、従来は、尿管に直接メスを入れ、結石全体を取り出していました。その後、膀胱側、あるいは腎臓側から、細い内視鏡をいれ、レーザーなどを使って破碎する術式が普及しました。これらはいずれも、麻酔医による麻酔管理が必要であり、手術室で行う必要があります。

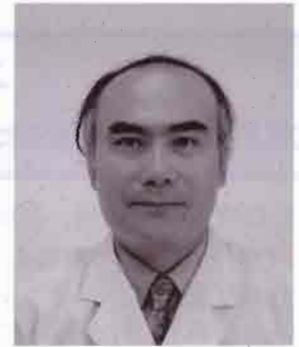


このたび当院に設置された装置は、麻酔医による麻酔の必要はなく、通常、鎮痛剤の投与のみで治療が可能です。したがって、術前後の絶食に伴う輸液管理や術後の行動制限なども不要です。現在は、治療の15分前に鎮痛剤を投与し、約1時間ベッド上に安静にしている間に、破碎装置を稼働させ結石を破碎しています。治療後は、特に行動に制約はなく、術直後の飲水や食事が可能です。結石の大きさが1cm以下であれば、数日後には全て排石されることがしばしば経験されます。



新医長紹介

さかがみ さとる  
循環器科医長：阪上 学



金沢大学附属病院(旧第一内科)から新しく循環器科に赴任しました。医師として20年目を迎えます。これまでの医師生活のうち10年間は冠動脈治療や心不全治療を、後半の大学での10年間は不整脈治療を主体に循環器診療を行ってきました。特に難治性不整脈の心房細動に対するカテーテルアブレーションは日本をリードする診療成績を上げてきました。この4月から金沢医療センターに赴任するにあたり、これまでの臨床経験を生かして、どのような循環器疾患においてもバランスよい診療を心がけていきたいと思っています。当院では一通りの循環器系検査や薬物療法はもちろんのこと、カテーテルやペースメーカーを用いた非薬物療法まで幅広く行うことが可能であり、患者さんの状態やニーズを考慮した最善の治療法が行えると思います。これらの診療を通じて地域の医療に貢献できるように精力を尽くしたいと考えています。お気軽に相談いただければ幸いです。よろしくお祈りします。

新医長紹介

きた としゆき  
呼吸器科医長：北 俊之



平成17年4月1日付けで、呼吸器科医長の大役を仰せつかりました。出身は富山県氷見市で、中学時代はバレーボール部で主将を、大学時代はハンドボール部で心と体を鍛えました。特に大学時代は医学部の全国大会で4年連続優勝を達成しました。自治医科大学卒業後は富山県内の病院に9年間勤務し、5年前に金沢に来たときは、なんて都会なのだろうと感激しました(午後8時以降でも街が明るい!)。金沢大学呼吸器内科在籍中は、喘息や肺気腫の病態解明の研究の傍ら、肺癌、間質性肺炎など多くの患者様を診察させて頂きました。最近では、超音波内視鏡を用いた肺癌の早期診断に取り組んでいます。

あまり上達しなかったゴルフやスノーボーは、2年前、長男のベビーベッドを組み立てていた時に「ぎっくり腰」を患ってから中断しております。

当院は、先輩の先生や優秀なスタッフの方々のご努力で、地域の基幹病院として目覚ましく発展しております。医長として、その一翼を担えるよう精一杯がんばりますので、皆様、ご指導ご鞭撻の程よろしくお祈りします。

平成17年4月からの主な人事異動

新規	氏名	新規	氏名
副院長	小島 靖彦	統括診療部長	能登 裕
事務部長	反中 日出夫	看護部長	寺田 操
教育研修部長(専任)	池田 清延	血管病センター部長(専任)	中村 由紀夫
成育医療部長(専任)	奥田 則彦	第二内科医長	吉尾 伸之
呼吸器科医長	北 俊之	循環器科医長	阪上 学
脳神経外科医長	正印 克夫	婦人科医長	瀬戸 俊夫
眼科医長	安藤 佳奈子	第三放射線科医長	小林 昭彦
管理課長	西出 一信	看護学校副学校長	南 美知子

## ニッタ先生の神経百話

### (第8回) 妻と看護師さんはえらい!



心筋梗塞、糖尿病、高血圧などでいつものように外来で順番を待っていたGさんの、意識がないとのことで担当の先生から呼ばれました。Gさんは眼を開けず、呼びかけにも全く反応がありません。手足も全く動かず、呼吸も苦しそうです。「う～ん、これは重症だなあ」と思いながらも、付き添っていた奥様に「いつからこんな状態なんですか?」とお尋ねすると、奥様はにこにこしながら、「そうねえ～、2時間くらい前からかねえ～」。あらららあ、そんなに前から?。「静かになっていたので、寝とると思ってましたあ」。そっ、そうですか。意識がないというのはとてもよくないことで、急いで原因をつきとめ、治療を始めないといけません。心筋梗塞や糖尿病、高血圧のある方なので、まず脳卒中を考え、緊急で頭部MRIを撮ってもらいましたが、予想に反して異常はありません。「変だな」と思いながらも、急いで入院していただきました。「糖尿病の方なので、血糖も測りますね」とのF看護師さんに、「お願いします」と返事をしたのですが、F看護師さんが、Gさんにとってもニッタ先生にとっても、勝利の女神となりました。「先生、血糖が測れません!」。そうなのです。Gさんの意識がない原因は低血糖だったのです。ブドウ糖を注射してしばらくすると、眼をつむり、全く動かなかったGさんが、眼を開け、手足をばたかせ、点滴のチューブや心電図の線がかちやかちやに。奥様、つかさず、「こりゃ、じいさん、そんなにあげれて皆さんに迷惑やろ。静かにしとろ!」。もちろん、意識のなかつたGさんですから、何のコトやらさっぱり。奥様に怒られて、さらに活発になられました・・・。

意識障害の原因はいろいろで、神経内科医の腕がためられるときです。糖尿病の場合は、血糖が高すぎても低すぎても意識障害を起こします。街で急に暴れ出し、救急車で運ばれた低血糖の方もおられました。皆様ご注意ください。

## 第4回ロビーコンサート開かれる。

### フルート奏者の中川いづみさんをお迎えして

去る4月18日、第4回ロビーコンサートが催されました。今回私は、患者様が集まって来られる開演前から、その場の雰囲気味わってみました。私の言葉で勝手に表現するならば、「スローに始まってスローに終わる」・・・つまり、他の一般のコンサートでの開演前の嫌なドキドキ感がないので、ゆったりとした雰囲気の中で開演できるという構成が私には心地よく、患者様もかしこまらずに参加できたのではないのでしょうか。

さて、恒例の中年3人トリオ(あくまでも自称)ですが、会を重ねることに貫禄が・・・、おそらく私自身が感じていた身内の気恥ずかしさの様なものが薄れたためか、ニンマリとした表情で音楽を楽しんでおられる様子は、とても素晴らしいうらやましくも感じました。



今回はスペシャルゲストとして、プロのフルート奏者(越田医師の恩師であられる中川いづみさん)をお迎えし、春をテーマとした曲が繰り広げられました。

コンサート中盤に入り、ふと周りを見渡して見ると、数人の患者様が穏やかな表情で目を瞑り、ウトウトされていました。曲調との相乗効果で、満開の桜から新緑へと移り変わるうらかな季節を感じられたコンサートでした。(文責 井村)



## 【血管病センターから】

## 糖尿病足病変はチームワーク医療で克服へ

糖尿病に伴う合併症には、いわゆる三大合併症が広く知られていますが、最近では足病変、すなわち足に生じる壊疽・潰瘍・重篤な感染症などが注目されてきています。足病変は、進行すると足の切断を余儀なくされ、患者さまのQOLを大きく損なってしまいます。糖尿病足病変は欧米では昔からよく知られていますが、日本でも近年増加傾向にある一方で、その診療体制は欧米に比べて遅れているといわざるを得ません。

そこで、今年の1月26日(水)の午後6時から当院の講堂で、糖尿病足病変に関係する診療科、すなわち内科、整形外科、心臓血管外科、皮膚科、血液内科、循環器科の医師が演者となってシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、足病変に対する各科の取り組みを紹介するとともに、今後のチーム医療を推進するために、お互いの意見交換も行いました。当日



は、院内スタッフだけではなく、関連医療機関や患者さまにも多数参加していただき、参加者は150名を越える盛況となりました。

各臨床科からの発表後、フロアから足病変の種々の場合における治療方針の問題点や、患者さまに対する指導法などの具体的な意見が多く出され、当院スタッフも今後さらに研鑽を積んで、足病変に対してチームで取り組んでいく必要があることを再認識しました。

このシンポジウムは、今後も年に1~2回程度開催する予定であり、今後のシンポジウムに対するご要望等を地域医療連携室(FAX 262-4188)にお寄せいただければ幸いです。(連携室 川原 繁)



## 痴呆(認知症)と介護シンポジウムのご案内

日時：平成17年6月23日(木) 午後6時半～8時半頃まで。

場所：金沢医療センター3階 講堂。

参加：どなたでもご自由にご参加ください。

痴呆(認知症)患者さんとそのご家族は日々の生活の中で痴呆(認知症)と戦っています。医療や福祉はそれらに対しどのように向き合うかが問われているように思われます。今回、以下のようなシンポジウムを企画しました。――

- (演題) 1. 「痴呆(認知症)とは」 神経内科医長：新田永俊  
 2. 「痴呆(認知症)の画像診断」 放射線科医長：多田明  
 3. 「手術でよくなる痴呆(認知症)」 脳神経外科医長：正印克夫  
 4. 「痴呆(認知症)に伴う精神症状」 精神科医長：坂井尚登  
 5. 「高齢化社会に対する金沢市の福祉サービス」 金沢市保健衛生課：越田理恵先生  
 6. 「かかりつけ医の立場からみた痴呆(認知症)の現状と対策」 上川医院：上川吉彦先生  
 7. 「地域に密着した高齢者の相談―見守りネットワーク活動―」

おとしより介護相談センターとびうめ：佐宗節子所長

8. 「痴呆の人の思い家族の思い」 呆け老人をかかえる石川家族の会代表：井沢恵美子さん

(総合討論) 司会：新田永俊(神経内科医長)、尾角裕美(ソーシャルワーカー(地域医療連携室))

―― この企画が患者さんやそのご家族の一助となれば幸いです。(血管病センター 中村 由紀夫)

## 金沢医療センターを去るにあたり

勝見 哲郎 (前副院長)

私は昭和57年当病院へ赴任するにあたり、小児泌尿器科を立ち上げる事、前立腺癌手術療法を推進する事を考えてまいりました。これには訳があり、小児泌尿器科に関しては小児の腎癌(ウィルムス腫瘍)治療にあたり小児の外科治療に関心をもち、当院では奥田小児科医長他諸先生方の協力のもと主に膀胱尿管逆流防止術を行い治療成績を発表してきましたが、成育の面ではさらなる長期観察の必要性を痛感しています。前立腺癌手術に関しては医師国家試験の口頭諮問で当時北陸地区で誰もやっていない前立腺全摘除術の話に強いカルチャーショックを受け、当院では積極的に手術を行いその安全性や効果を学会で発表し、国立病院泌尿器科としてはアピール出来たと思っています。しかし、診療部長、副院長として皆様方の御期待にどれだけ応えられたか甚だ心もとないのですが、これまで頂いた職員皆様方のご協力を感謝すると共に、これからの金沢医療センターの益々の発展を心から願っています。

## 看護学校入学式

兼六園の桜の花もちらほらと開き始めた4月7日、第59回金沢医療センター附属金沢看護学校入学式が挙行されました。今年の入学生は男子学生8名を含む84名です。ひとりずつ名前を呼ばれ、緊張した声で返事をし、学校長から入学の認証を受けました。



木田学校長から、「ともにがんばっていきましょう」との歓迎の式辞のあと、来賓を代表して、当校の実習施設でもある国立病院機構北陸病院の院長、古田寿一氏より祝辞を賜りました。古田氏は、当校の校歌を取り上げて、サーカディアンリズムに反して提供される“聖なるわざ”の大へんさ、すばらしさについて触れ、校歌に歌われているような看護師になってほしいと述べられました。上級生を代表して3年生の太田景子さんが、看護学校に入学してから現在までに経験したさまざまな出来事を紹介し、これから始まる新しい生活への期待ふくらむ歓迎の辞を述べました。それを受けて、入学生代表の新田陽子さんが、看護学生としての本分、また、看護学校学則、その他諸規則を守るとの宣誓文を読み上げました。

平成17年度は例年になく男子学生の入学が多く今後の活躍に期待したいところです。今年度は3年生100名(男子学生3名)、2年生91名(男子学生4名)の合計275名でスタートしています。(文責 西村)

### 「話題の病気シリーズ」なっとくのいく話：今後の予定

場所 当院地域医療研修センター

第14回	看護師の知恵袋	5月19日(木)午後3時から	担当	看護部	石川 倫子
第15回	肝炎に対するテーラーメイド治療	6月16日(木)午後3時から	担当	消化器科	足立 浩司
第16回	乳がんの検査って、どんなことするの？	7月21日(木)午後3時から	担当	放射線科	俵原 真里



# 外来担当医一覧表

平成17年 5月

診療科目	診療時間	【初診受付時間】 午前8時30分～11時30分					備 考
		月	火	水	木	金	
内 科	初 診	吉村	吉尾	伊勢	北	周藤	糖尿病教室: 毎週月曜日(14:00～15:00)
	初診(消化器)	太田	高田	松田(尚)	松田(耕)	大原	禁煙外来: 月、水曜日(14:00～)
	内分泌・代謝①	能登	長岡	石倉	能登	長岡	*キャリア外来
	内分泌・代謝②		(能登)		石倉		高血圧教室: 第2水曜日
	腎・膠原病	伊勢	伊勢	木田	吉村	吉村	
	血 液	吉尾		周藤		吉尾・池ヶ谷	第1・5金曜日 吉尾、第2、3、4金曜日 池ヶ谷
	呼 吸 器	北	良元	北	犬塚	良元	
	消 化 器 ①	森本	太田	森本	太田	森本	
消 化 器 ②	松田(尚)	松田(耕)	足立	*足立	高田		
精 神 科		坂井	小室	坂井	小室	坂井	
小 児 科	一 診	奥田	市村	奥田	酒詰	奥田	予防接種: 火、木曜日14:00～16:00
	二 診	西田/市村	西田	脇坂	脇坂	齊藤(剛)	
	(午後) 特 殊	慢性疾患・発達	1ヶ月検診・発達	アレルギー・慢性疾患	乳児検診・発達	循環器	午後の診察時間(特殊外来のみ)
	特 殊	奥田	奥田	奥田/市村	奥田	酒詰	月、水15:00～16:00・火、木14:00～16:00
小 児 科	特 殊		内分泌	小児神経	慢性疾患		
	一 診	桐山	初診のみ	桐山	初診のみ	桐山	
	二 診	黒阪	(当番医)	小島	(当番医)	小島	
	三 診	竹川		竹川		竹川	
	五 診	道場		道場		道場	
	六 診	田村		船木		佐々木	
	七 診	道輪	(手術日)	黒阪	(手術日)	道輪	
	乳 腺 外 来	道輪		桐山		竹川	
整 形 外 科	一 診	末吉	末吉	初診のみ	米澤	初診のみ	スポーツ外来: 第2、4火曜日(15:30～16:30)
	二 診	米澤	米澤	(当番医)	末吉	(当番医)	
	三 診	白井	白井		白井		
	四 診	林	多田	(手術日)	林	(手術日)	
脳 神 経 外 科	一 診	池田	池田	当番医	池田	正印	月、水、金曜日: 手術日
	二 診	赤池	正印/赤池	(手術日)	正印	赤池	火曜日二診は、一週交代です。(10:00～)
神 經 内 科		新田	池田(篤)	新田	池田(篤)	新田	火: 物忘れ外来(午前)、水: 頭痛外来(午前)
循 環 器 科	一 診	関口	中村	[初] 阪上	中村	[初] 中村	[初]=初診
	二 診	佐伯	阪上	武田	阪上	武田	
	三 診		佐伯		関口		
心 臓 血 管 外 科	一 診	佐々木	遠藤	佐々木	遠藤	佐々木	
	二 診		川上		松本(康)		
	三 診	(手術日)	松本(康)	(手術日)	笠島	(手術日)	月、水、金曜日: 手術日
皮 膚 科	初 診 / 再 診	川原	松下	川原	松下	川原	乾癬外来: 木曜日(13:30～)
	再 診	松下	川原	村田	川原	村田	
	再 診	村田	村田	松下	村田	松下	
泌 尿 器 科	一 診	越田	越田	勝見	石浦	越田	ED外来: 第2、4木曜日・ストマー外来第2月曜日
	二 診	杉本	杉本	石浦	杉本	石浦	
		(手術日)		(手術日)		(手術日)	月、水、金曜日: 手術日
産 婦 人 科	一 診	丹後	瀬戸	丹後	金谷	瀬戸	妊産婦健診: 午前(月～金)及び月、金曜日午後
	二 診	金谷	当番医	瀬戸	当番医	金谷	
	三 診	谷田部		谷田部		谷田部	火、木曜日: 手術日
	四 診	瀬戸	(手術日)	金谷	(手術日)	丹後	火曜日午後: 乳房外来
眼 科	一 診	安藤	安藤	安藤	安藤	安藤	コンタクト: 月、水曜日(13:00～15:00)
	二 診		当番医		当番医		火、木曜日: 手術日
	三 診						
耳 鼻 咽 喉 科	一 診	瀧口	瀧口	瀧口	瀧口	瀧口	聴覚、平衡: 火、木曜日(15:00～16:00)
	二 診	巽	巽	巽	巽	巽	月、水、金曜日: 手術日
放 射 線 科	一 診	斎藤	多田		多田	斎藤	照射の依頼: 毎日可
	(超音波)	小林	多田・小林	大久保	多田・大久保	俵原	
歯 科 口 腔 外 科	初 診 / 再 診	中尾	窪田	窪田	初診のみ	窪田	
	再 診	窪田	北原	中尾	(当番医)	中尾	
	再 診		(手術日)	北原	(手術日)	北原	火、木曜日: 手術日
麻 酔 科	一 診	岸植	岸植		岸植	岸植	ペインクリニック、術前診察: 午前中
	二 診	横山	野竹			太田	

※ 特殊外来及び午後外来は、予約が必要です。なお、急患については、終日受付します。  
担当医は都合により変更となる場合がありますのでご了承願います。

## コスモス広場

## 白衣をリフレッシュしました。

看護師の象徴であるナースキャップをはずし1年、キャップがなくなっても皆さんに看護師であることがわかって頂けるような「看護師としての姿勢、言動」に努めてきました。そして今回、さらに「看護師としての清潔感」や「看護師としての気品」を高めるために白衣をリフレッシュしました。白衣のワンポイントにピンク・ブルー・白のラインをつけ、一人一人の看護師が患者様から好感が持っていただけるように、自分にあった色のラインを選びました。最初は「恥ずかしくてピンクは着られない」と言っていた看護師も、気づくとピンクを着ている光景を目にします。とてもソフトな雰囲気になっていく看護師の姿を見て、うれしくなるのは私だけでしょうか？



これからも患者様から好感を持っていただける「気品・清潔感ある看護師」を、そして安全で安心のできる看護、思いやりのある看護を心がけてまいりたいと考えています。(文責 石川)

## 金沢医療センターの理念

## 【理念】

私たちは、生命の尊さと人権を尊重し、高度で最良の医療をめざします。

## 【基本方針】

- 一、説明と同意に基づく信頼される医療をめざします。
- 一、臨床研究を行い、医学の進歩に貢献することをめざします。
- 一、病診連携を密にして、地域医療に貢献することをめざします。

編集後記：独立行政法人に移行して1年が過ぎました。皆さんにとってどのような1年だったでしょうか？(わたしにとっては大変な1年でした。)

当医療センターでは昨年10月に電子カルテの導入を図り、今後さらに診療面の充実を図ることとしています。

私は、この4月の異動で「戸室石だより」の編集委員の一員として加わることになりましたが、編集委員一同、皆様方に愛読される内容作りを目指して頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(K.N)

発行元：金沢医療センター(〒920-8650 石川県金沢市下石引町1番1号)

電話：076-262-4161(19時以降の救急受付：076-262-4163)、FAX：076-222-2758

ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~knzwhosp/> Eメール [admin@kanazawa.hosp.go.jp](mailto:admin@kanazawa.hosp.go.jp)

地域医療連携室(直通番号 076-262-4187、専用FAX 076-262-4188)

編集委員：石川倫子、井村政美、緒川陽子、川原 繁、佐々木久雄、周藤英将、滝野 豊、西井佐織、西出一信、西村民子(五十音順)